

千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021 千代田区気候変動適応計画2021 【概要】

2021(令和3)年11月
千代田区

計画の基本的事項

計画策定の背景と目的

- 区では、地域特性に即した施策を推進するため、2007（平成19）年に「千代田区地球温暖化対策条例」を制定しました。
- また、同条例及び地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、2010（平成22）年に「千代田区地球温暖化対策地域推進計画」を策定、2015（平成27）年に改定を行い、様々な施策を行ってきました。
- IPCC1.5℃特別報告書や各自治体によるゼロカーボンシティ宣言の広がりなど地球温暖化問題に係る国内外の動向は非常に大きな変化を見せています。
- こうした変化に対応し、脱炭素社会の実現を目指すため、地球温暖化対策条例を改正するとともに、区域全体の地球温暖化対策に総合的かつ計画的に取り組むため、地域推進計画の改定を行います。

計画期間・基準年度

計画期間： 2021（令和3）年度～2030（令和12）年度（10年間）
基準年度： 2013（平成25）年度（※1990（平成2）年度比を併記）

対象とする温室効果ガス

温室効果ガス7種類

※計画目標の対象ガスはエネルギー起源CO₂とします

将来像及び計画の目標

将来像

2050ゼロカーボンちよだ

2050（令和32）年のCO₂排出実質ゼロをめざし、地球温暖化対策に取り組めます。

CO₂排出量の対策目標

【対策目標】

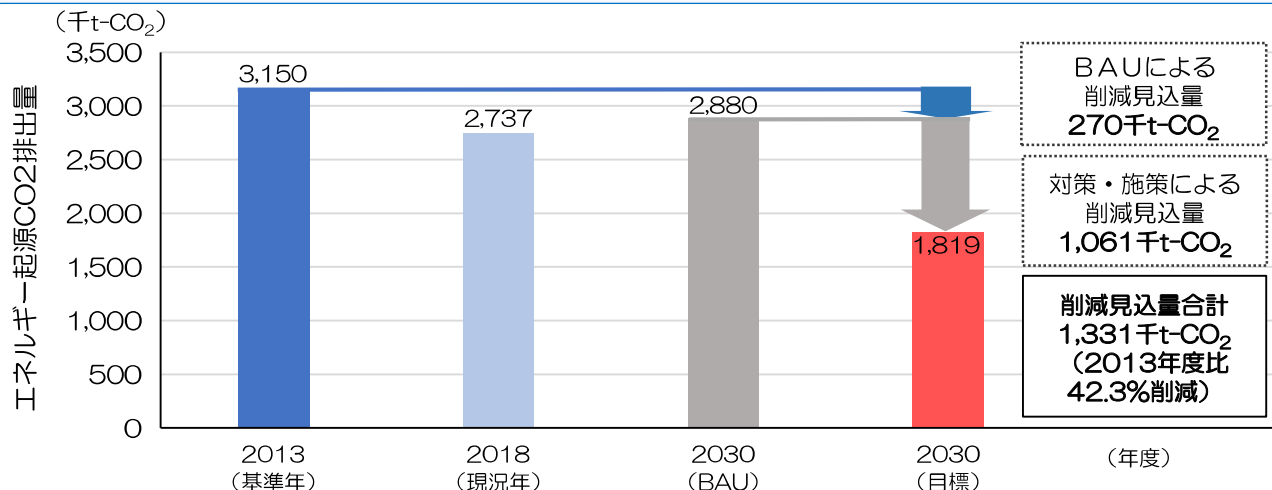
2030（令和12）年度までに、区内の**エネルギー起源CO₂の総排出量**を2013（平成25）年度比**42.3%削減**します。※1990（平成2）年度比では33.6%削減

【補助指標①】

2030（令和12）年度までに、区内の**業務部門における延床面積当たりのエネルギー起源CO₂排出量**を2013（平成25）年度比で**52.5%以上削減**します。※1990（平成2）年度比では52.0%削減

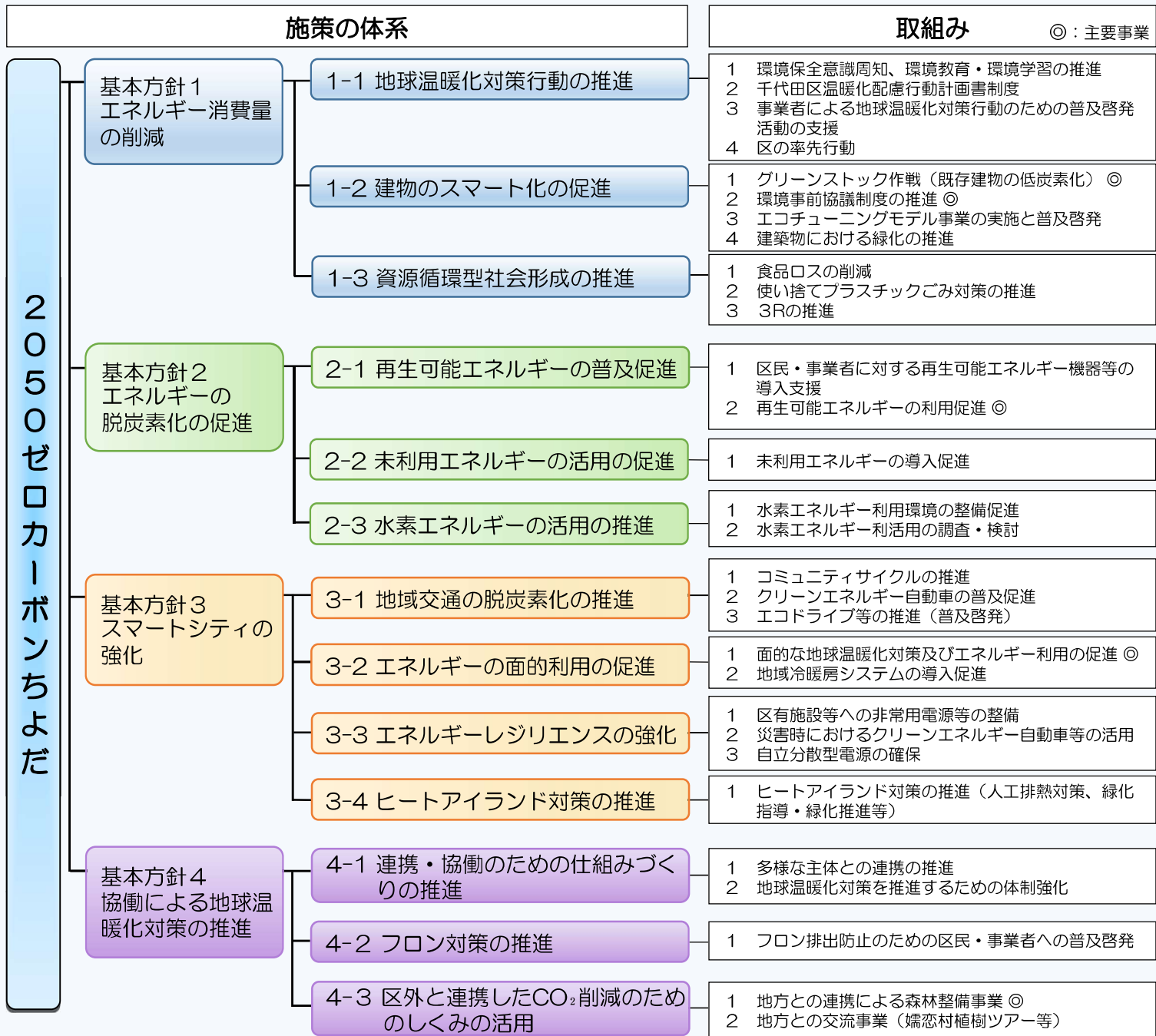
【補助指標②】

2030（令和12）年度までに、区内の**最終エネルギー消費量**を2013（平成25）年度比で**25.2%削減**します。※1990（平成2）年度比では33.9%削減



基本方針・施策の体系

本計画の目標達成のため、4つの基本方針を設定し、それぞれの方針に沿った取組みを進めます。



主要事業

- 主要事業1** グリーNSTOCK作戦（既存建物の低炭素化）：区内全域の既存建物の省エネ化を支援します。
- 主要事業2** 環境事前協議制度の推進：建築物の新築・増改築に際し、事前協議によるCO₂削減に取り組みます。
- 主要事業3** 再生可能エネルギーの利用促進：電力などの再生可能エネルギーの普及に向けた取組みを推進します。
- 主要事業4** 面的な地球温暖化対策及びエネルギー利用の促進：複数の建物や地区、街区などの「面」における省エネルギー化を推進します。
- 主要事業5** 地方との連携による森林整備事業：地方都市と連携して森林整備を行い、CO₂吸収源の確保を推進します。

計画の基本的事項

計画策定の背景と目的

- 近年、気温上昇や大雨の頻度の増加、それに伴う熱中症や水害リスクの増加など、気候変動による影響が全国各地で生じており、気候危機というべき非常事態に直面しています。
- 千代田区においても気候変動による影響が現れはじめており、さらに今後、影響が長期にわたり拡大するおそれがあります。
- 2018（平成30）年に気候変動適応法が成立し、都道府県及び市区町村がそれぞれの区域の特徴に応じた適応策を推進するため、地域気候変動適応計画の策定に努めるとされました。
- 地球温暖化の要因である温室効果ガスの排出を削減する対策（緩和策）に加え、地域特性を踏まえた気候変動の影響による被害の回避・軽減対策（適応策）を推進するため、地球温暖化対策条例に気候変動適応策を位置づけ、計画を策定します。

計画期間

2021（令和3）年度～2030（令和12）年度（10年間）

将来像

いつまでも安心して住み働き続けられる強く魅力あるまち

区・区民・事業者や関係機関等が一体となって適応策に取り組むことで、気候変動の影響による被害をできる限り回避・軽減し、千代田区に住み、働く人々が安心して生活・活動できるまちをめざします。

影響が考えられる分野

分野	予想される主な影響
自然災害 	- 大雨の発生回数が増加し、水害の頻発や極めて大規模な水害が発生する懸念が高まっている。 - 集中豪雨の増加に伴い、土砂災害発生頻度の増加が想定される。 - 台風の強度が増し、竜巻発生的好適条件の出現頻度が高まる。
健康 	- 気温上昇が進むと、暑熱により熱ストレスが増大し、熱中症や死亡リスクが高まる懸念される。 - 気温上昇により、感染症を媒介する節足動物（蚊やダニ等）の分布可能域が変化し、感染症のリスクが増加する可能性がある。 - 大気中のオキシダント等の汚染物質の濃度が変化している。
水資源・水環境 	- 無降水日数の増加が予測され、渇水の増加が懸念される。 - 河川や濠の水温や水質の変化が想定される。
生活 	熱ストレスが増大し、睡眠障害、暑さによる不快感、だるさや疲労感、屋外活動の制限等による機会の喪失など、様々な影響が及ぼされる。
産業・経済活動 	従業員の労働環境の変化や原材料の収量・品質の低下、設備の維持管理にかかるコスト増、市場ニーズの変化など、企業の事業活動に様々な影響を及ぼす。
自然生態系 	- サクラの開花日が早まることが予想される。 - 生物の分布域の変化や種の絶滅を招く可能性がある。 - 外来種の侵入・定着率の変化に繋がることが想定される。

基本方針・施策の体系

本計画では3つの基本方針を設定し、気候変動による影響が考えられる各分野について取組みを進めます。

★：優先的に取り組む施策



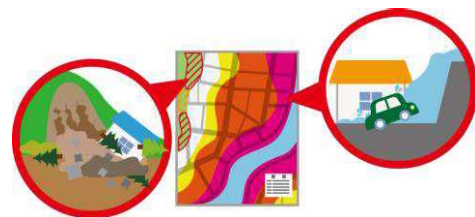
建築物の浸水対策の推進

一定規模以上の建築物の新築及び増改築に際して計画の初期段階から事前協議を行い、建築物の浸水対策の推進を図ります。



区民等向け行動指針の作成・公表

自然災害への備えや発生した際の留意点など具体的な行動の指針を作成し、区民や事業者等に広く周知します。



暑さ指数（WBGT）の測定等による注意喚起

区有施設等に暑さ指数（WBGT）の測定器を設置し、数値を知らせることで熱中症等への注意喚起を図ります。

温度基準（WBGT）	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険（31℃以上）	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒（28～31℃）		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒（25～28℃）	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意（25℃未満）	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

出典：日本生気象学会
「日常生活における熱中症予防指針」



地球温暖化って？ 気候変動って？

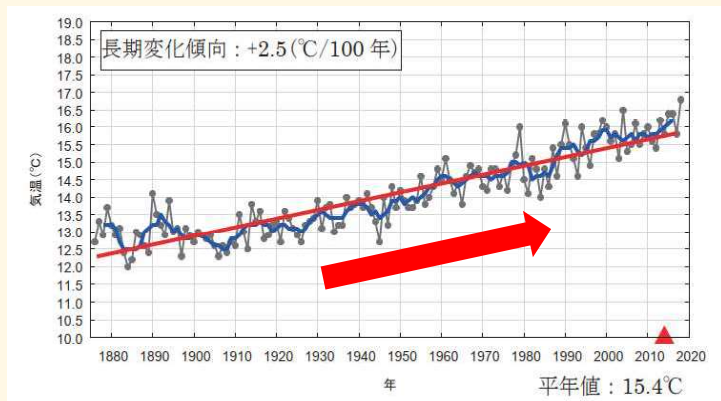
人間活動の拡大により二酸化炭素、メタン、フロン類などの温室効果ガスが大量に排出されて大気中の濃度が高まり、熱の吸収が増えた結果、気温が上昇してきています。これが地球温暖化です。

気候は元々、太陽活動の変動や火山噴火などにより自然に変動や変化をしています。近年の気候には、この自然の変動や変化に、温室効果ガスの排出や森林伐採など、人間活動に由来する変動も加わってきています。

気候変動には気温上昇や、降水の変化などが含まれます。

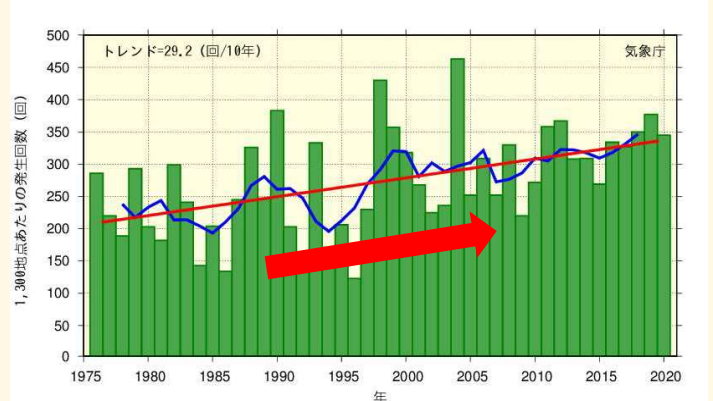
千代田区の気候の変化は？

東京都の年平均気温は上昇（100年間で+2.5℃）しています。また、真夏日や熱帯夜の日数も増加しています。



出典：東京管区気象台

全国的には、短時間強雨（1時間降水量50mm以上）の年間発生回数が統計開始時から約1.5倍※に増えています。



※最近10年間（2011～2020年）と統計期間最初の10年間（1976～1985年）のデータとの比較

出典：気象庁

地球温暖化を防ぐ取組み・気候変動に適応する取組み例

一人ひとりの取組み例

温室効果ガス排出量を削減するために

■家の中でできる取組み例

- ・ エアコンの温度を適切に設定しましょう
- ・ 冷蔵庫の開け閉めは短い時間で。中身を整理して、ものを詰めすぎないようにしましょう
- ・ 厚手で長いカーテンを付けましょう

■機器の買い替えの際の取組み例

- ・ 省エネ性能の高い商品を選びましょう
- ・ 部屋の広さや家族の人数に合ったサイズを選びましょう

■移動する際の取組み例

- ・ エコドライブに取り組みましょう
- ・ 公共交通機関を利用しましょう
- ・ 短い距離は歩くか自転車に乗りましょう

■家の新築・改築、引っ越しの際の取組み例

- ・ “夏は涼しく、冬は暖かい” 省エネ住宅にしましょう

■その他の取組み例

- ・ 太陽光発電など自然エネルギーを活用しましょう
- ・ 再生可能エネルギー由来の電気を使用しましょう

気候変動に適応するために

■自然災害に対する取組み例

- ・ ハザードマップを確認しましょう
- ・ 水や食料等の災害備蓄品を強化しましょう
- ・ 地域の防災訓練に参加しましょう

■暑熱に対する取組み例

- ・ 熱中症等予防に関する情報を理解しましょう
- ・ 「ひと涼みスポット」等の暑熱対策設備の利用やこまめな水分補給により熱中症を予防しましょう
- ・ 熱中症警報や暑さ指数（WBGT）の情報を受信し、熱中症を予防しましょう
- ・ 地域の打ち水イベント等の暑熱対策に関する取組みに参加しましょう

■渇水に対する取組み例

- ・ 節水に関する情報を理解しましょう
- ・ シャワーの時間を短くするなど節水を心掛けましょう

■その他の取組み例

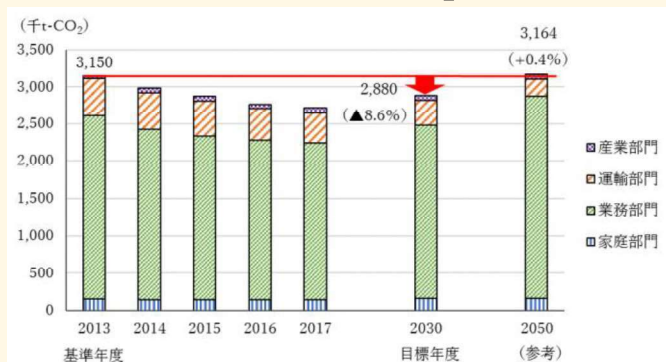
- ・ 気候変動の影響や適応に関する情報収集をしましょう

千代田区の将来の気候は？ どんな影響がある？

千代田区は、今後も事業活動や人口が増加を続けていくと予想されています。そのため、今のままの温暖化対策を続けていても、千代田区から排出される温室効果ガスの量は少なくなりません。

温室効果ガスを削減し、地球温暖化を食い止めるためには、今よりも一層の対策をしなければいけません。

千代田区におけるエネルギー起源CO₂の将来推計



千代田区における将来の気候は・・・

- 現在よりも気温が上昇
- 猛暑日・真夏日・夏日・熱帯夜が増加
- 短時間強雨が増加
- 渇水日が増加



気候の変化によって受ける影響は・・・

- 浸水被害の増加、大規模な水害の発生
- 台風・強風発生の増加
- 熱中症の増加
- 蚊やダニ等が媒介する感染症のリスク増加
- 渇水の発生
- 暑さによる屋外活動の制限
- 労働環境の変化、市場ニーズの変化
- 桜の開花日の早期化

など



気候変動の原因となる「温室効果ガスの排出を削減すること」、すでに起こっている「気候変動に適応すること」の両方を進める必要があります。

事業所における取組み例

温室効果ガス排出量を削減するために

■環境活動の取組み例

- ・ 事務所内照明のLED化や、自動調光システムの導入、遮熱フィルムの貼付により節電に取り組みましょう
- ・ ノー残業デー、クールビズ・ウォームビズ・スーパークールビズの導入などワークスタイルを工夫しましょう
- ・ 必要書類の電子化や電気自動車等への切り替えによって廃棄物や燃料等の削減に努めましょう
- ・ 再生可能エネルギー由来の電気を使用しましょう。

■環境教育の取組み例

- ・ 従業員に対し研修会等で学習機会を提供しましょう
- ・ 従業員の環境学習や環境活動を支援しましょう
- ・ 自社の取組みを社内外へ情報提供しましょう

■地域貢献活動の取組み例

- ・ 地域住民等に教育・学習機会を提供しましょう
- ・ CSR報告書を作成し、配布しましょう
- ・ 区が実施する環境保全イベントに参加しましょう
- ・ 地域の環境活動へ参加・貢献しましょう

気候変動に適応するために

■自然災害に対する取組み例

- ・ ハザードマップを確認しましょう
- ・ 水や食料等の災害備蓄品を強化しましょう
- ・ 災害発生時に備えたBCP（事業継続計画）を策定しましょう
- ・ 地域の防災訓練に参加・実施しましょう
- ・ 災害発生時には、建物周辺の人々の安全を確保しましょう

■暑熱に対する取組み例

- ・ 従業員に対する熱中症対策を強化しましょう
- ・ 敷地内の緑化を進めましょう

■渇水に対する取組み例

- ・ 建物の中水利用や地下浸透など水の利用を工夫しましょう

■その他の取組み例

- ・ 適応に関する先進的な取組みを参考にしましょう

気候変動の緩和策・適応策とは？

気候変動に対処していくためには、原因となる温室効果ガスの排出を削減する取組みである「緩和策」と既に生じている、または将来予測される影響による被害を回避・軽減する取組みである「適応策」をともに進めていくことが重要です。

千代田区では、主に「緩和策」に関する取組みを「千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021」に、「適応策」に関する取組みを「千代田区気候変動適応計画2021」に定め、気候変動対策を推進していきます。

緩和策：気候変動の原因となる温室効果ガスの排出削減対策

（例）省エネルギー対策、再生可能エネルギーの導入

適応策：既に生じている、あるいは、将来予測される気候変動の影響による被害の回避・軽減対策

（例）風水害対策、熱中症対策



出典：環境省

千代田区地球温暖化対策地域推進計画2021／千代田区気候変動適応計画2021【概要】
2021（令和3）年11月

編集・発行 千代田区環境まちづくり部環境政策課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL 03-5211-4255